

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493600033	事業の開始年月日	平成18年6月1日	
		指定年月日	平成18年6月1日	
法人名	株式会社エクセルシオール・ジャパン			
事業所名	いきいきの家 泉			
所在地	(245-0018)			
	神奈川県横浜市泉区上飯田町3805-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果 市町村受理日	平成23年2月17日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

横浜の中心地から電車やバスを乗り継いで40分程度にありながら、天気の良い日には富士山も一望できる環境のもと、穏やかな生活を提供できるホームであることが自慢です。周りは野菜畑がひろがり平坦な道も多く、交通量が少ないことから高齢者が気軽に外出や散歩に出掛けることができます。近隣の小学校や中学校、徒歩3分程度に立地の他のグループホームなど人と人が助け合い、支えあうことが可能な点が一番の魅力です。職員は恵まれた環境の中で、認知症高齢者であっても社会の一員として生きることの喜びを感じていただく事ができるように毎日お手伝いしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年1月17日	評価機関 評価決定日	平成23年2月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

≪事業所の優れている点≫
 ◇車が少なく遠方まで見渡せ、利用者が外出してもすぐ確認できる立地を活かして、玄関は鍵を掛けずに利用者の尊厳重視の方針で支援している。
 なお、職員は利用者の行動に注意するだけでなく、近所のコンビニやガソリンスタンドに対し、一人で出掛ける利用者を見たときの引き留めと、ホームへの連絡についての協力を依頼している。
 ◇サービスの質の改善を図るため、職員だけでなく利用者と家族の意見、提案を積極的に受け入れて、事業所の運営に反映している。
 ◇管理者は、職員の意見を事前に提出してもらい検討するなど、会議を効率的に運営することにより無駄を省き、利用者との係りを重視してホームを運営している。
 ◇利用者には、自立度と残存能力の維持を目標に、日々の清掃や食事の際のお茶やお絞り配り・配膳・下膳・食器洗いに協力してもらっている。
 ≪事業所が工夫している点≫
 ◇近隣のグループホームと連携して、夜間災害時の避難訓練に対する協力体制を計画している。
 ◇宅配業者のおかずに加え、利用者と職員が協力して畑で惣菜用の根菜類を作っている。また、行事では雑煮やお赤飯を出し、誕生日には利用者の希望をいれて、近隣のレストランで食事を楽しんでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	いきいきの家泉
ユニット名	江ノ島

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は法人及びホームの理念や目標を共有するため、朝・夕の申し送り時に話をするとともに全職員の名札の裏にモットーをプリントしている。	・ホーム独自の理念、“利用者の今までの生活習慣の尊重、安心できる環境提供、笑顔でいきいきと明るい生活の支援”を、全職員で作り上げ、職員は入社時の研修に加え、日々のミーティングで繰り返し確認し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の中学校の体験学習の受け入れや自治会のお祭りに参加するなど、地域の一員として存在している。	・地元自治会から、年初に年間の行事予定表をもらい、お祭り、運動会などに積極的に参加している。また、自治会には災害時の避難場所として当ホームの活用も申し入れており、地元からは夜間防災協力の申し出も貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	車椅子の方を含めて近隣の散歩を通じて認知症に対する理解を深めるよう、交流を図っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2009年度の評価結果は参加者全員に配布して結果を包み隠さず話すと同時に改善項目についての説明を行いました。	・泉区の指導で近隣3ホーム合同の運営推進会議を行っており、現在3か月に1回開催している。 ・メンバーには、各ホームの利用者、家族、自治会正、副会長、泉区担当課員、上飯田地域ケアプラザ、各ホーム職員が参加している。	・3ホーム合同運営推進会議のため、各ホーム固有の改善テーマが出にくい状況が懸念されます。事前に3ホームで、必要な討議テーマの発掘、抽出されるなどの工夫が望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回は挨拶に行くように努力しています。	・泉区の担当課には、毎月訪問するほか電話でも連絡を取り、ホームの運営状況や区紹介の利用者の近況を報告している。 ・年1回、区職員のが来訪があり、また、区主催の研修会には職員が積極的に参加し受講している。	

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間の防犯目的以外は施錠せず、常にフリーの状態です。玄関のドアは寒冷期を除き9時から18時まで開放しています。	・→日中玄関は施錠せず、利用者はいつでも外出できる安心感を持って穏やかに生活している。職員は利用者の思いに寄り添うとともに、近隣に見守りと通報をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	神奈川県高齢者福祉施設不祥事防止等連絡協議会作成の「ぬくもりのある質の高いケアをめざして」という報告書を全員に回覧し、付属のアンケート用紙を基に研修を実施しました。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	厚生労働省ホームページによる資料を回覧して見識を高めています。当ホームは生活保護受給者が多いことから、後見人や区の担当者と打ち合わせの機会もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず2時間程度かけて文書を見せながら口頭で説明した上で、質問をうけるようにしています。利用者または家族には納得していただいた上で署名捺印をお願いしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加の呼びかけ、ケアプラン説明時や病院受診の結果報告などを電話でする際に意向を聞いています。	・年1回、家族会を開催してサービスの改善についての意見や要望を聞いている。今後は更に、外部評価、自己評価で判明した問題点もテーマとして取り上げ、具体的改善策を利用者、家族と相談しながら策定し、実行していく。	

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が月に1回法人のグループホーム連絡会議に出席して意見交換をしており、議事録も作成しています。	・職員の意見は、事前にメモとして提出してもらい、関係職員による事前討議で、ある程度煮詰めたものを会議にかけ、結果は必要に応じて即運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回査定により勤務状況や労働状況を確認しています。また社内には通報制度があり、職員が代表者に直接文書で報告や相談ができる環境を整えています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が複数のグループホームを有しているため、職員相互の研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	徒歩3分にある他ホームとは運営推進会議を合同開催する仲であり、気軽に相談できる関係です。現在は災害時の相互連携に向けた話を進めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向を聞くように書面を作成しています。		

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を聞いた上で書面を作成しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況について、家族や医療機関、担当ケアマネージャーなどから情報収集をしてニーズを正確にとらえるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食前の準備や後片付け、清掃など生活のあらゆる面で入居者の活躍のばを設けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には定期的な訪問を促し、イベントへの参加にも誘っています。個別の外出も行っていただくよう話をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一時帰宅や外泊の推進をしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの美容院、墓参りなどは家族が同伴している。 ・毎日来られる方など家族の来訪は多いが、友人の来訪は少ない。利用者がより地域に馴染み、従来との関係が途切れないよう、地域行事への参加などで支援していく予定である。 	

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が他の入居者の食事の配ぜんや洗濯を畳むなど、相互に関わりあうことができる雰囲気です。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に入院など医療依存が著しくなった場合には、その後の状況など医療機関と連携を図っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	計画書（1）に本人の意向欄を設けています。	・意思表示の困難な方については、家族等から入所前の状況を詳しく聴き、本人の希望を読み取っている。 ・家族の居ない利用者には、声掛けや本人の態度、表情から意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより調査をした上でホーム独自のフェースシートに記載しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	逐一様子をうかがい、個別の介護記録に時系列で記載しています。		

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向欄を設けています。	・原則とし半年ごとにモニタリングし、カンファレンスで居室担当者をはじめ利用者と家族の意見を反映して介護計画を見直している。 ・見直した介護計画は、利用者本人と家族へ説明して承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別には介護記録を作成しており、常に職員が目を通して気づいた点を話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天気のいい日はドライブに出掛けるなどその日の気分や状態に合わせて臨機応変に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のガソリンスタンドやコンビニにお願いをして、入居者が単独で散歩や買い物をできるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で近所のクリニックが往診をしてくれ、必要に応じた検査も行います。また、精神科への受診の付添送迎も実施しています。	・病種によって特定のかかりつけ医に通院する人もいるが、現状、利用者の大部分はホームの協力医を主治医とし、隔週往診を受けている。 ・なお、薬の受け取りは、職員が代行している。	

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が定期的に訪問して気づいたことを書面で残しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月に1回は管理者が近隣の医療機関にあいさつ回りをしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面を作成しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する指針を、重要事項説明書に記載して、入所時利用者、家族に説明し承諾を得ている。 ・医療連携、訪問看護体制もほぼ確立しているが、現在、ターミナルケアを必要とする利用者はいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化や終末期に向けた方針がほぼ確立していますが、今後は、①ターミナルに関する医療機関との契約、②研修による職員の意識改革などの具体的な準備が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを掲示しており、特に夜勤者は毎回見ながら業務にあたるよう指導しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施するとともに両隣の民家や数件先の別のグループホームとも連携を取っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年11月、スプリンクラーを設置し、ホーム両隣の住民とは夜間災害時の支援協力について承諾を得ている。近隣3ホームとの緊急時連絡体制や相互応援協力について相談し、システム構築について作業を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害時の備蓄、装備面では、利用者一人ひとりのヘルメット・防災頭巾や最低量の飲料水の備蓄などについて、ホーム内で検討がなされることが望まれます。

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内で接遇研修を実施するとともに管理者が職員の言葉づかいに注意を払っています。	・入所時のオリエンテーションで研修し、個人情報規程・職員心得手帳を配布して、利用者の尊厳とプライバシーの確保を徹底している。 ・トイレ誘導に際しては、利用者の心を傷つけぬよう注意して言葉かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎週土、日は入居者が食べたいものを昼食に提供しています。管理者と計画作成担当者がそれぞれ週1回以上個別に入居者と話しをする機会を設けています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は週6日提供しており、利用したい日時に合わせることができません。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日パジャマと洋服は着替えて頂くよう支援しており、着たい服を選んでいただくよう声掛けしています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の準備や食後の後片付け、味見などはほとんど入居者の仕事になっています。	・可能な利用者には配膳・下膳、食器洗いを手伝ってもらっている。 ・メニューは宅配業者が立てるが、個人の好みに合わせて肉から魚に変更したりしている。正月はお雑煮を出し、お誕生月の利用者は、町で外食を楽しんでいる。		

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量はそれぞれ毎日のチェックリストに記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を毎食後記入しています。訪問歯科が隔週できており、個別に口腔ケアを実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	今年の10月にオムツ着用で入居した利用者は、夜間ポータブルトイレ使用により、失禁がなくなりオムツから普通の下着に変更しています。	・トイレが自立の方と、オムツの方の割合は半々であり、職員は排泄チェック表で個々のリズムを掴み支援している。 ・日中はトイレ誘導、夜間はポータブルトイレの使用で、オムツが取れた事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に牛乳を提供して便秘解消を図っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	金曜日を除き、週6日、10時から15時まで浴室を自由に使用できます。	・自立の方は週6回、要介助の方は週3回の入浴を支援している。 ・毎日入浴剤を変え、また、季節には柚子湯などをたてて入浴を楽しんでもらっている。 ・お湯は常にオーバーフローさせて清潔にも配慮している。	

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に食後にベッド誘導するなどの対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方薬の一覧をファイリングしていつでも目を通せるようにしています。服薬に関しては職員二人以上で確認するよう徹底したマニュアル化をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	トランプや花札、編み物、散歩や買い物等の外出を個別に組み込んで日々の生活を張りのあるものにしていきます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特定の入居者に限定されてしまうが、本人の希望により単独で外出することも可能です。	・車椅子の利用者も入れて希望者は、畑が見える事業所周りを毎日散歩している。遠出は、大庭城址・ズーラシア・中田中央公園・大池公園やレストランに出かけて、季節感や外食を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	単独で買い物に出掛ける方もおり、個別の状況に応じて支援しています。		

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームのPHSを使用していただき、プライベートに配慮しつつ電話ができるような環境を作っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光があり、天気の良い日は富士山もみることが可能な穏やかな環境です。	<ul style="list-style-type: none"> ・居間は、南北のテラスからの採光で明るく風通しがあり異臭はない。 ・居間と玄関には季節の花を飾り、壁面には利用者の作品が掛けられており、利用者は落ち着いた季節感のある雰囲気の中でゆったりと過ごしている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人数分以上の椅子を設置しており、誰でも使用できるほか、マッサージチェアやウッドデッキにもベンチを用意してゆったりと過ごせる環境を構築しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたタンスや家具を持参していただけます。また、写真や人形を居室に飾るなど好みに合わせてレイアウトできるように支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッド・カーテン・整理ダンスなどは好みのものを持ち込み、また、仏壇やテーブル、椅子を置いている利用者もいる。 ・清掃は職員が行っているが、整理・整頓は利用者も一緒に行い、本人が心地良く過ごせるように配慮している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のベランダからホームの庭にでることが可能で、家庭菜園をしている方もいらっしゃいます。		

事業所名	いきいきの家泉
ユニット名	鎌倉

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は法人及びホームの理念や目標を共有するため、朝・夕の申し送り時に話をするとともに全職員の名札の裏にモットーをプリントしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の中学校の体験学習の受け入れや自治会のお祭りに参加するなど、地域の一員として存在している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	車椅子の方を含めて近隣の散歩を通じて認知症に対する理解を深めるよう、交流を図っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2009年度の評価結果は参加者全員に配布して結果を包み隠さず話すと同時に改善項目についての説明を行いました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回は挨拶に行くように努力しています。		

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間の防犯目的以外は施錠せず、常にフリーの状態です。玄関のドアは寒冷期を除き9時から18時まで開放しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	神奈川県高齢者福祉施設不祥事防止等連絡協議会作成の「ぬくもりのある質の高いケアをめざして」という報告書を全員に回覧し、付属のアンケート用紙を基に研修を実施しました。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	厚生労働省ホームページによる資料を回覧して見識を高めています。当ホームは生活保護受給者が多いことから、後見人や区の担当者と打ち合わせの機会もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず2時間程度かけて文書を見せながら口頭で説明した上で、質問をうけるようにしています。利用者または家族には納得していただいた上で署名捺印をお願いします。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加の呼びかけ、ケアプラン説明時や病院受診の結果報告などを電話でする際に意向を聞いています。		

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が月に1回法人のグループホーム連絡会議に出席して意見交換をしており、議事録も作成しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回査定により勤務状況や労働状況を確認しています。また社内には通報制度があり、職員が代表者に直接文書で報告や相談ができる環境を整えています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が複数のグループホームを有しているため、職員相互の研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	徒歩3分にある他ホームとは運営推進会議を合同開催する仲であり、気軽に相談できる関係です。現在は災害時の相互連携に向けた話を進めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向を聞くように書面を作成しています。		

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を聞いた上で書面を作成しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況について、家族や医療機関、担当ケアマネージャーなどから情報収集をしてニーズを正確にとらえるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食前の準備や後片付け、清掃など生活のあらゆる面で入居者の活躍のばを設けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には定期的な訪問を促し、イベントへの参加にも誘っています。個別の外出も行っていただくよう話をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一時帰宅や外泊の推進をしています。		

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が他の入居者の食事の配ぜんや洗濯を畳むなど、相互に関わりあうことができる雰囲気です。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に入院など医療依存が著しくなった場合には、その後の状況など医療機関と連携を図っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	計画書（1）に本人の意向欄を設けています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより調査をした上でホーム独自のフェースシートに記載しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	逐一様子をうかがい、個別の介護記録に時系列で記載しています。		

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向欄を設けています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別には介護記録を作成しており、常に職員が目を通して気づいた点を話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天気のいい日はドライブに出掛けるなどその日の気分や状態に合わせて臨機応変に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のガソリンスタンドやコンビニにお願いをして、入居者が単独で散歩や買い物をできるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で近所のクリニックが往診をしてくれ、必要に応じた検査も行います。また、精神科への受診の付添送迎も実施しています。		

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が定期的に訪問して気づいたことを書面で残しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月に1回は管理者が近隣の医療機関にあいさつ回りをしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面を作成しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを掲示しており、特に夜勤者は毎回見てから業務にあたるよう指導しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施するとともに両隣の民家や数件先の別のグループホームとも連携を取っています。		

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内で接遇研修を実施するとともに管理者が職員の言葉づかいに注意を払っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎週土、日は入居者が食べたいものを昼食に提供しています。管理者と計画作成担当者がそれぞれ週1回以上個別に入居者と話しをする機会を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は週6日提供しており、利用したい日時に合わせることが出来ます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日パジャマと洋服は着替えて頂くよう支援しており、着たい服を選んでいただくよう声掛けしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の準備や食後の後片付け、味見などはほとんど入居者の仕事になっています。		

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量はそれぞれ毎日のチェックリストに記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を毎食後記入しています。訪問歯科が隔週できており、個別に口腔ケアを実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	今年の10月にオムツ着用で入居した利用者は、夜間ポータブルトイレ使用により、失禁がなくなりオムツから普通の下着に変更しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に牛乳を提供して便秘解消を図っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	金曜日を除き、週6日、10時から15時まで浴室を自由に使用できます。		

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に食後にベッド誘導するなどの対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方薬の一覧をファイリングしていつでも目を通せるようにしています。服薬に関しては職員二人以上で確認するよう徹底したマニュアル化をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	トランプや花札、編み物、散歩や買い物等の外出を個別に組み込んで日々の生活を張りのあるものにしていきます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特定の入居者に限定されてしまうが、本人の希望により単独で外出することも可能です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	単独で買い物に出掛ける方もおり、個別の状況に応じて支援しています。		

いきいきの家 泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームのPHSを使用していただき、プライバシーに配慮しつつ電話ができるような環境を作っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光があり、天気の良い日は富士山もみることが可能な穏やかな環境です。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人数分以上の椅子を設置しており、誰でも使用できるほか、マッサージチェアやウッドデッキにもベンチを用意してゆったりと過ごせる環境を構築しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたタンスや家具を持参していただきます。また、写真や人形を居室に飾るなど好みに合わせてレイアウトできるように支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のベランダからホームの庭にすることが可能で、家庭菜園をしている方もいらっしゃいます。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホームいきいきの家泉

作成日

平成23年2月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	3ホーム合同の運営推進会議のため、各ホーム固有の改善テーマが出にくい状況が懸念される。	利用者や家族からの要望が出やすいような雰囲気のあつる会議を実施する。	事前にテーマを決めておき、参加者にも周知しておくことで活発な意見交換ができる雰囲気を作る。	次回会議（2011年3月10日予定）で発案、次次回より実施。
2	12	ターミナルに関する医療機関との契約、研修による職員の意識改革などの準備を要する。	終の住み家として最期まで安心して生活できるようなホームになる。	訪問医、訪問看護ステーション、救急病院、家族などの協力や理解を得るように話し合いを持つ。職員研修の項目にターミナルケアを追加する。	2011年6月末を目途に実施。
3	13	非常災害用の備蓄がない。	万一の非常災害時にも万全な態勢で臨むホームで有り続ける。日頃から準備をしておき、非常時にも素早く対応できる。	水や食料を3日分備蓄する。	2011年3月末を目途に実施。
4					
5					